

# センター移転床面積3.2倍

## 浜松 効率上げ荷量増に対応

### ダイセーエブリー24

ダイセーエブリー二十四(田中孝昌社長、愛知県一宮市)は3月24日、浜松ハブセンター(浜松市東区)を竣工させ、移転を完了した。旧センター(中区)の取扱量の増加に対応。ピーク時には、仕分け後にトラックへ商品を積みながら保管スペースを確保していた状況の改善や、作業効率の向上を図る。また、庫腹の拡充で受注可能になる荷量アップにより、新センターの売上高は2024年12月期までに21年12月期比62%増を目指す。総投資額は14億円。稼働後は5月中に8割の運用を計画している。

(梅本誠治)

### 東名・新東名近く

同センターは、敷地面積1万6000平方メートル、延べ床が旧施設に比べ4.2倍の面積は同3.2倍となる2

700平方メートルの鉄骨造り一部2階建て。1600平方メートルの冷蔵庫を中心に、旧センターにはなかった冷凍庫も設け、大豆製品や乳製品、日配品や弁当などの米飯・総菜類といったチルド食品の出荷、配送、一時保管や仕分けを含む流通加工を手掛ける。

同施設は、ハブセンターの機能を持つ1階に中型トラック用2基、大型トラック用2基のドックシェルターを備えた14バースを設置。容量48リットルの自家給油施設と洗車場、非常用発電装置を完備するほか、8月には出力150キロワットの太陽光発電設備の設置を予定している。



竣工した浜松ハブセンター

むことなく安全でおいしい商品を安価で届け続けることが使命。その物流を担う重要なパートナーとして、100周年に向けた次の10年もダイセーエブリー二十四さんとともに成長したいと考えている。乗り越える

べき課題が多い物流業界の中で、一層質の高いサービスの提供を期待したい」と祝辞を述べた。

立地は、東名高速道路・浜松インターチェンジ(IC)の至近で、新東名高速道路の浜松北ICからも15分ほどの距離。東名・浜松西IC近くだった旧センターに比べ、両高速のICに近いことがBCP(事業継続計画)対策でも有利に働く。

今後は、静岡県内の荷主の獲得に向けて配送ネットワークの再構築を進めるとともに、チルド輸送の運送会社が少ない地域の中で自社比率が7割に迫る強みを生かし、既存荷主や納品先の深化と地場荷主の開拓で利益向上を目指していく。